

緊張感高まるテメリーン原発の入札
(現地誌の翻訳)

- ・アトムストロイエクスポート（露）とウエスティングハウス・エレクトリック（米）の2社が入札選考に残っている。
- ・ウエスティングハウス関係者は、同社が入札を獲得すれば、チェコの鉄鋼会社が海外市場で活躍できる可能性があるとして述べている。(U.S. bidder says Czech steel producers could secure overseas work if it wins tender.)

将来性のあるチェコ企業は、米国の原発建設に参加出来る可能性があり、又、チェコの新大統領選出も入札結果に影響するであろうと言われている。テメリーン原発入札を巡るアピール合戦は、その決定が近づきつつある中、複雑な様相を呈している。

チェコ電力（CEZ）が2013年末に決定を予定している100億ドル規模に及ぶ南ボヘミアに位置するテメリーン原発増設工事（2基の原子炉の増設）は、業界関係者によるとしばし、技術的な要素と同様に地政学的な要素により決定されるとしている。

最近の穿った見方では、米ペンシルバニアに本拠を置く日本企業/東芝が所有するウエスティングハウスは、チェコ史上最大の入札となる本件を後退（英文では **setback** と表現）させようとするゼマン候補（選挙の結果、大統領に当選。2013年3月8日に就任予定）の提案を退けた、という話がある。

巷で広く流布している噂では、コラムニストのイジー・レシュティナ（Jiri Leschtina）が先月、“Hospodarske noviny（経済新聞）”に寄稿したように、ゼマンが大統領となった場合、アトムストロイエクスポート（露）が有利となるといったものである。

ウエスティングハウス・エレクトリック CEO のダニー・ロデリック（Danny Roderick）は、この噂について、「単なるロシアのプロパガンダ」（“Just Russian propaganda”）であると述べている。又、同氏は加えて、ゼマン候補の（大統領選）勝利が同社の選定に（悪い）影響を及ぼすという話を信ずるに値しない（“no reason to think”）と述べている。

同氏は、「同社は世界中の多くの政府機関と仕事をしてきており、又、チェコ政府とも同様に仕事をしてきた。その他のことを考える理由はない（“We have no reason to think anything will be difficult”）。両大統領候補共に、原発の必要性を高く述べている」と語っている。

同氏は、競争相手の腹黒い活動（“disingenuous” activity）を非難しており、具体的には、ロシア国内の入札において同社のライバルとなる企業の味方をする、といったものである。（He accused the other bidder of “disingenuous” activity, suggesting it was trying to pressure firms into aligning themselves with Russian bid.）

「このような行為は、尊敬されるものではない。彼らは、もしあなたがロシア企業と契約しないのなら仕事はない、と言った幻想を作り出している。（注：ロシア国内での話か、チェコ国内でもそのように言っているのかについては、英文からは不明）。この手の公共事業の話はロシア全土にあり、全ての公共工事にあてはまる。このテメリーン原発案件は、チェコの公共工事史上、最大規模の一つである」と述べている。（“It’s disrespectful. They’re creating this illusion that if you don’t sign up with Russians, you won’t get any work. It’s

s going to take this entire country to build this plant. This is one of the biggest projects the Czech Republic has ever attempted,” he said.)

ウエスティングハウスのサポーターは、チェコ（政府）はロシアへの過度なエネルギー依存を避けるべく、アトムストロイエクスポルト（露）の提案を退けるべきであると述べている。ロシアは既に、チェコへの石油とガスの主要な供給国となっていると述べている。加えて、ロシアは既存のテメリーン原発 2 基に核燃料を提供している。

前出のロデリック・ウエスティングハウス CEO は、「ロシア側の提案は財政面で問題があり、もしロシア側が過度に寛大な財政支援策を俎上に乗せることがあれば、欧州連合 (EU) が介在することになる」とも述べている。

第三の入札者であるアレバ（仏）は、2012 年の入札（参加一次選考で失格となった）で失格となったが、2013 年 2 月 1 日にチェコ公正取引委員会（Office for the Protection of Competition of the Czech Republic）に苦情を申し立てている。しかし、この苦情申し立てにより入札手続きが一時的に停止される訳ではない。

この間、ウエスティングハウスは、アトムストロイエクスポルト（露）側のチェコ企業とも強固な関係作りに努めており、もしウエスティングハウスが入札を獲得した場合であっても、彼らチェコ企業に 7 割の仕事が割り振られるとしている。

ウエスティングハウスは、チェコの鉄鋼会社 4 社（Excon Steel, Modrany Power, Vitkovice, Metrostav）と覚書（memorandums of understanding）を締結しており、その内容は同社が入札で選定された場合、これら 4 社から調達するといったものである。

原発関連の供給会社となり得る多くの潜在企業は、例えば Excon Steel もその一つではあるが、既にアレバとも覚書（memorandums of understanding）を締結するなどして、保険を掛けている。

ウエスティングハウスは、もし同社が入札で選定された場合には、部品会社は建設予定の原子炉 AP1000 型において、強い立ち位置を占めると述べている。

ウエスティングハウスは以前、オストラバにある Vitkovice 社は、欧州の他の地域で AP1000 型原子炉を建設する場合、そのパートナーとなり得るとも述べている。

前出のロデリック・ウエスティングハウス CEO は、原発建設に耐えうる高品質の鉄鋼製品を生産できるチェコの鉄鋼会社は、北米における AP1000 型原子炉建設工事にも参加できる可能性があると述べている。

「北米では、今後 20 年の間に 104 基もの原子炉が閉鎖対象となっている。これらは新規更新されなければならない。さもなければ、米国の電力供給量の 20% が失われることとなる。しかし、米国の鉄鋼業は既に海外へ出て行ってしまった」と述べている。

「(今回の入札は) ウエスティングハウスにとってチェコで共働する機会であり、何故なら我々は高品質の鉄鋼製品を提供出来るハブとなり得る企業を必要としているからである」と述べている。しかし、チェコの鉄鋼企業にとって、本当に北米の原発建設に関与出来るか否かは、定かではない。

「(チェコの鉄鋼製品を調達するというのは) もっともらしい話ではあるが、もしウエスティングハウスが特殊な鉄鋼製品や特殊な合金類を言っているのであれば、中欧の企業はその要求に対応できる技術力はある。しかし、それらは相対的に少量であり、大きな生産能力を要する企業にとっては、魅力に欠ける」とマッコーリーグループ (Macquarie Group) で欧州鉄鋼業界を研究しているアナリスト・ジェフ・ラゲイ (Jeff Largey) は述べている。

「もし米国で発電所が建設される場合、欧州から米国への輸送費を勘案すると、多くの鉄鋼が現地調達となる」。

チェコ機械工業会（Czech Machinery Cluster）のマネージャーであるルボミール・ゴジエラ（Lubomir Gogela）は、ウエスティングハウスとアトムストロイエクスポートのいずれが落札しようが、チェコ企業の海外における活躍の場は確かなものとなると述べている。

しかし、同氏は、「ロシアが入札を獲得した場合（チェコ企業のロシア市場に向けた取り組みに対して、多くの機会が提供されるかについて）、定かではない」と述べている。又、「ロシア市場は非常に難しい」とも述べている。

以上

出展：The Prague Post (February 6-12, 2013)

翻訳については一切の責任を負いません。内部限り。